

## 【アメリカ】米議会公聴会における安全保障分野での日米・日米韓関係に関する米陸軍司令官の証言

海外立法情報課 渡辺 広樹

\* 国連軍／米韓連合軍／在韓米軍司令官への就任指名を受け、ザビエル・ブランソン米陸軍第一軍団司令官は2024年9月17日、上院軍事委員会の指名承認公聴会に出席した。同氏による事前質問事項への回答及び公聴会での証言における日本に関連する部分を紹介する。

### 1 概要

2024年9月17日、上院軍事委員会は、バイデン（Joe Biden）政権による大将への昇進人事と国連軍／米韓連合軍／在韓米軍司令官への就任指名を受けた、米陸軍第一軍団<sup>1</sup>司令官を務めるザビエル・ブランソン（Xavier T. Brunson）陸軍中將の指名承認公聴会を開催した。ブランソン陸軍中將は、事前質問事項への回答を提出した上で本公聴会に出席し、委員からの質問に答えた。

### 2 事前質問事項への回答

まず、ブランソン陸軍中將は、米国ワシントン州に拠点を置く米陸軍第一軍団の司令官として、自らが太平洋陸軍及びインド・太平洋軍への支援を通じて、当該戦域における作戦即応性と安定性の確保に貢献してきたと述べた。そして、国防総省の指針、国家防衛戦略及び国家安全保障戦略に則り、統合抑止力を支援するに当たり、米軍の各軍種及び（米国政府の各）省庁による共同チームと協働してきたこれまでの豊富な知見を自らの資質として取り上げた<sup>2</sup>。

#### (1) 日韓関係に対する評価

日韓関係に対する評価を求められたブランソン陸軍中將は、日韓両国間の協力の拡大に言及し、日韓及び日米韓の安全保障上、協力の重要性が増していることを両国が認識しているとの見解を示した。その理由として、地域的及び地球規模の課題並びに北朝鮮の核及びミサイルの脅威に対応する（両国の）必要性によるものであることを挙げた<sup>3</sup>。

ブランソン陸軍中將は、日韓関係及び日米韓三か国による安全保障協力を促進するために、（日韓）両国による前例のない措置が講じられたとして、幾つかの具体的な取組を紹介した後に、（日韓）両国が共有する価値観及び共通の戦略的利益から生じる二国間安全保障協力の利益に対する認識が、日米韓協力の強化に貢献していると主張した。そして、この協力関係が北朝鮮に対する抑止力の向上のみならず、自由で開かれたインド太平洋の維持にも有益であるとした。

\* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2024年12月4日である。

<sup>1</sup> 第一軍団はインド・太平洋軍傘下の太平洋陸軍に属する。RIMPEACE 編集部「第一軍団と安保条約極東条項」『追跡！在日米軍』2004.8.8. <<http://www.rimpeace.or.jp/jrp/riku/zama/1corps1.html>>を参照。また、神奈川県のカンパ座間には前方司令部が存在する。時事ドットコムニュース「キャンプ座間、有事への備え 第1軍団前方司令官初インタビュー」2018.11.18. <<https://www.jiji.com/jc/v4?id=20181118campzama0001>>

<sup>2</sup> “Advance Policy Questions for Lieutenant General Xavier T. Brunson, USA Nominee to be Commander, United Nations Command, Commander, United States Combined Forces Command, and Commander, United States Forces Korea,” p.2. Senate Armed Services Committee website <[https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/brunson\\_apq\\_responses.pdf](https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/brunson_apq_responses.pdf)>

<sup>3</sup> *ibid*, pp.20-22. 以下、本節の記述については同じ。

また、自身の指名が承認された場合、引き続き、（日韓との）二国間、三国間、そして多国間協力を推進し、日韓の安全保障関係を更に促進する指導的役割を担うと述べた上で、これらの重要な同盟国との軍事領域における連携と協力を追求し、地域の安定を促進し、北朝鮮に対する抑止力を強化する方針を示した。

## (2) 日韓関係及び日米韓三か国関係の更なる強化の機会に対する所見

ブランソン陸軍中將は、日韓二国間及び日米韓三国間における今後の協力進展の見通しについて、日米韓三国間の協力、連携及びパートナーシップを深めることが、21世紀の最も差し迫った課題に対処するために不可欠であると論じた上で、次のように回答した。まず、日韓の国家安全保障は、共通の脅威及び米国との同盟によって密接に結びついている。三国間の協力は、地域の脅威に対抗するために（三か国の）能力を結集し、地域の自由及び繁栄を促進するためのツールとして機能する。そして、三国間の安全保障関係は①対話と政府高官による交流、②北朝鮮のミサイル早期警戒情報のリアルタイムでの共有、③演習、訓練及び交流の三分野に区分され、各分野における三国間の協力は拡大している。指名承認後には、相互運用性を促進し、同盟国及びパートナーの安全保障を強化するとともに、三国間の安全保障関係の更なる制度化を進める相互利益分野を追求したい。

## 3 公聴会での証言

ギリブランド（Kirsten Gillibrand）上院議員（民主党）からの、日米韓（三か国）関係の更なる深化をどのように進めるべきかという問いに対し、ブランソン陸軍中將は、（他国による）悪意ある行為により引き起こされる問題に対する好機を認識することが重要であると回答した<sup>4</sup>。そして、米国はそのような行為と、それに巻き込まれる主体とを分けて考える必要があると訴えた。それにより米国は、当該地域周辺の国々に影響が及んでいることを理解し始めると述べた。

また、それ（日韓関係の進展）が、南に対する北朝鮮、そして北に対する韓国という（両サイドの兵力をめぐる）「算数の問題」を変質させると主張した上で、当該地域で悪意ある行為が起きると、大抵の場合、同志国（like-minded nations）は結束するとの見解を示した。

さらに、ブランソン陸軍中將は、日米韓（三か国）関係が果たしうる役割を、ただ（独立国家としての）生存を望む当該地域周辺の国々にとっての磁石に例え、そのような国々はただ、自らの沿岸で漁業を行いたいのであり、日々（不当に）脅されることは望んでいないと述べた。ゆえに、真に重要なのは、「これが我々であり、これが我々のすることである」と発言する（米国を中心とした同盟などの）巨大な構造物を越えて団結できることを、（それらの）国々に見せることであると論じた。しかし、（同盟を越えた力を見せたいものの、まだそれを完全には達成できてはいないが、）まさに結集した人々が、当該地域に存在するこれらの相互防衛条約を紡ぎ合わせ、「我々はここに居続ける」と発言していると指摘した上で、「我々がそこにおいて、我々が国として言ったことを保証し続ける」こと、そして「我々がそこで我々の決意を示す」ことを自らの方針として示した。

<sup>4</sup> Senate Committee on Armed Services, “NOMINATION HEARING,” September 17, 2024, pp.82-84. <[https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/nomination\\_hearing.pdf](https://www.armed-services.senate.gov/imo/media/doc/nomination_hearing.pdf)> 以下、本節の記述については同じ。